

# 壬生町本庁舎跡地等活用検討委員会 会議録

会議名：第2回壬生町本庁舎跡地等活用検討委員会

日時：令和元年9月27日（金） 午前10時～午前11時45分

場所：壬生町役場 2F 正庁

出席者：委員14名

三橋 伸夫（委員長）、大西 良雄（副委員長）、板橋 徳治、内山 功、白久 久雄、青木 隆司、神永 信男、瀬戸 洋子、関和 重行、広瀬 聡、金子 裕之、福田 倫子、早乙女 春香、中村 元子

（欠席者1名：川島 有由）

事務局5名

櫻井副町長、出井総務部長、大垣総合政策課長、玉田係長、黒澤係員

傍聴人数：報道関係者2社（2名）

## 【議事内容】

### 1 開 会

### 2 前回会議録の確認

出席委員に前回会議録の内容を確認いただき、質問はなかった。

### 3 あいさつ（三橋委員長）

中心市街地の敷地の活用という点では、先日、那須塩原市の黒磯駅前であまなか交流センターがオープンしたが、本委員会で検討する庁舎の跡地利活用と条件が似ていると感じた。黒磯駅前の施設は、飲食店や音楽スタジオ、会議室などを含んでおり、地域住民や観光客を含め、多目的に利用できる形態であるが、やはり地元の方が気軽に立ち寄ることができることが一番だと思う。壬生の本庁舎跡地に整備する施設についても、旧壬生地区の方々に支持されることが重要であるので、地元の意見をできるだけ反映する形で、検討を進めることとしたい。

### 4 議事

#### （1）ワーキンググループの設置状況について

事務局から資料1「ワーキンググループの設置状況について」により、設置の目的、構成員、開催実績について説明を行った。

#### （2）今後の検討スケジュールについて

事務局から資料2「本庁舎跡地等利活用の検討スケジュール（予定）」により、今後2年間の検討スケジュール及び委員会の開催予定を説明するとともに、10月に実施するアンケートについて、委員である各自治会長に協力を依頼した。

#### （3）宇都宮大学との連携による地域資源調査の結果について

事務局から資料3「壬生地区中心市街地の地域資源調査を宇都宮大学と協働で開催」により、調査結果を説明した。

#### （4）県外の先進事例調査の結果について

事務局から資料4「岐阜県垂井町の現庁舎敷地等活用に係る検討状況の調査結果について」より、調査結果を説明した。

## 【意見交換・質疑応答】

副委員長）壬生の本庁舎周辺の旧市街地は通過点になってしまっていることが多いと思うが、垂井

町はどうか？

回 答) 垂井町においても、旧町役場周辺は車のアクセスが不便であり、郊外のショッピングセンターに行く方が多く、まちなかに立ち寄ってもらうことは難しいとのことであった。

副委員長) 買い物などで気軽に立ち寄ってもらうためには、快適なトイレを整備することが重要と思うので、今後の検討の中で留意してほしい。

委 員) この委員会を通じて策定する基本構想とは、どの程度具体的なものになるのか？

委員長) 基本構想や基本計画といった言葉に厳密な定義があるわけではない。事務局から説明があったように、壬生町の基本構想は、垂井町よりも具体的な内容を含むものになると思う。

委 員) 委員長から黒磯の事例を紹介いただいたが、実際に行って実感してみたいと思うので、その他に旧市街地での活性化事例があれば紹介していただきたい。

委員長) 宇都宮市のオリオン通りにあるビルを改装したアンテナショップや、高根沢町の JR 駅前の広場で蔵を再利用したスタジオなどの施設が考えられる。黒磯のまちなか交流センターの事例では、地元商店街が空き店舗を活用して観光客が立ち寄れる休憩施設に改装した。

委 員) この本庁舎跡地に整備する施設を検討するうえで、この場所は、浸水想定区域に入ると思うので、避難所などの活用は難しいのではないのか？かさ上げをした上で施設を整備する可能性はあるのか？

回 答) 現実的には、この敷地全てをかさ上げして避難所などの施設を整備することは難しいと思うので、浸水しても影響があまり大きくならない用途での利用法になるのではないのかと思う。

委 員) 鹿沼のまちなかの駅は、駐車場は少ないが、休日には来訪者でにぎわっているようである。

委 員) 同じ庁舎移転する事例でも、垂井町は森林が多いことから、平野が多い壬生町とは地形的な違いがあると思う。垂井町の旧市街地は 1カ所に集中しているようだが、壬生町は旧壬生地区とおもちゃのまちと安塚で 3カ所の市街地に分かれている。地元の住民としては、旧壬生地区は役場がなくなっても発展してほしいと思っており、駐車場もある程度確保できると思うので、観光の拠点にもなるような施設整備をお願いしたい。

委 員) 壬生町の場合は、おもちゃのまちは商業の集積が進んでおり、自然に発展していけるが、旧壬生地区は歴史や文化を活かしたまちづくりを進め、PR していく必要がある。

委員長) 事務局に質問があるのだが、壬生町では古墳がいくつかあり、古墳を訪問するツアーを実施していると思うが、ツアーの時期や参加者数のデータを提供願いたい。

回 答) 手元には資料がないので、後ほど報告させていただきたい。

委 員) 岐阜県の郡上八幡の取組みでは、長良川鉄道の沿線市町村で協議会を作って活動している。壬生町も東武宇都宮線を活用してまちづくりを進めるといいのではないのか。

回 答) 東武宇都宮線においても、民間を主体に、宇都宮市・壬生町・栃木市の 2市 1町も加わって沿線活性化プロジェクトを始めており、スタンプラリーを計画するなど、徐々に取組みを進めている。栃木市でも、休日の大通りの歩行者数は、数年前よりもかなり増えており、まちなかでイベントを開催している効果がでている。壬生町でも、マルシェやハロウィンイベントで集客できているので、庁舎跡地を拠点として整備していけると思う。

副委員長) 栃木県全体で、対外的な PR を強化して、集客に取り組んでいく必要がある。

委 員) 観光ボランティアをしているが、さくら祭りの期間はかなり人が集まる。遠くからの観光客を案内する場合、城址公園が集合場所になることが多いが、トイレや休憩スペースとしての機能に問題があるので、庁舎跡地を整備する際には、きれいなトイレがあり、一服してお茶を飲めるようなスペースがあるとよいと思う。

委 員) この委員会と WG の役割分担は説明いただいたが、合同開催してアイデアを交換するような取組みは考えられないか。

回 答) 各団体において、代表者の方がこの委員会、中堅・若手の方が WG に加わってもらって

いるので、やはり WG で多数のアイデアから 2～3 個に集約する作業を行い、この委員会  
会で方向付けをするという役割分担でやっていきたい。公募委員の方においては、来月  
住民会議の公募も行うので、そちらに参加いただければ、跡地の WG と住民会議の合同  
開催の機会は設ける予定である。

副委員長) 議論をして意見集約するためには、合同開催では難しく、この委員会程度の人数が上限  
になってくるのではないかと思う。

委員) 情報提供になるが、足利銀行では、足銀総研においてまちづくりの関わりがあるので、  
今後事例を紹介させていただきたいと思う。

委員長) 10 年ほど前に蘭学通り商店街の方と活性化のためのワークショップを行ったことがあ  
り、住民アンケートを実施したところ、空き家・空き店舗の活用法としては子供たちに  
不定期に勉強を教える塾や、自分たちの趣味の作品を飾るスペースなどの意見があった。  
このことから、サービスの受け手ではなく担い手になり得る方々が潜在的にいることが  
分かるので、そのような方を発掘し、施設の運営にも主体的に関与してもらえると、地  
域が一体的になって来訪者のおもてなしを向上させるなど、活性化に向けた好循環がう  
まれてくるのではないかと思う。それでは、次回以降も引き続き、跡地利活用の議論を  
進めていくこととしたい。

## 5 閉 会

署 名

壬生町本庁舎跡地等活用検討委員会

委 員

白 久 久 雄

委 員

青 木 隆 司